

第1回

衝撃！最古の巨大遺跡
見直される「文明の始まり」

講師 三宅裕さん

みやけ ゆたか 筑波大学教授。1960年生まれ。専門は西アジア考古学。西アジアの技術に関して、熱加工技術に注目し、土器、ブラスター（しつくい）、銅利用の起源とその後の展開を追究している。トルコにおいて新石器時代遺跡の発掘調査を実施。



Q 考古学に興味をもったきっかけは？

A 小学生の頃、自宅のそばの貝塚などを見に行った覚えがあります。あとは中学生のときに見たNHKの『未来への遺産』というドキュメンタリー番組で、西アジアや考古学に興味をもったのは覚えています。

Q 考古学のおもしろいところは？

A 新しい発見があると、従来の考えや説が大きく変わるところですかね。あとは、自然科学や人類学など、いろいろな分野の専門家と共同で研究することが多いので、知識や見聞などの幅が広がるということもおもしろいです。

Q 発掘現場で起こった印象深いエピソードは？

A 大学院1年生のときに、千葉県成田市の発掘現場で宅地開発の工事の人たちと同じ宿舎に泊まっていたことがあります。毎日「おう、飲め」みたいな日々で、みんな本当にお酒が強くて足元にも及びませんでした。あとは、海外の発掘だと現地の家を借りるところから始まるので、大家さんと交渉することですが、毎回家賃交渉で負けることですね。絶対勝てません（笑）。

Q 考古学の道に進まなかったら、何をしていたでしょう？

A なれたかどうかはわかりませんが、地球の歴史にも興味があったので、地質学の方角に進んでいたかもしれません。ちなみに子どもの頃から一番好きだったのはサッカーでした。ですので、海外調査の際に話題に困ると今もサッカーの話をします（笑）。

Q 考古学をテーマにした好きな映画や本は？

A 特にないかなあ。『インディ・ジョーンズ』とは大きくかけ離れているというか、考古学者はあんなにかっこよくないです（笑）。

Q ほかの文明について「いいなあ」と思うことは？

A あえて言うならエジプトですね。やはり乾燥しているので、人形とか船とか木製品が出てきますし、あとは画像などの資料もたくさんありますから。そういう情報が西アジアにもたくさんあればなあと思うことはあります。